



- このたびは、配線用遮断器をお買い上げいただきありがとうございます。
- 施工前に施工説明書をよくお読みの上、正しく施工してください。
- 施工完了後、この説明書を必ず取扱者様へお渡しください。

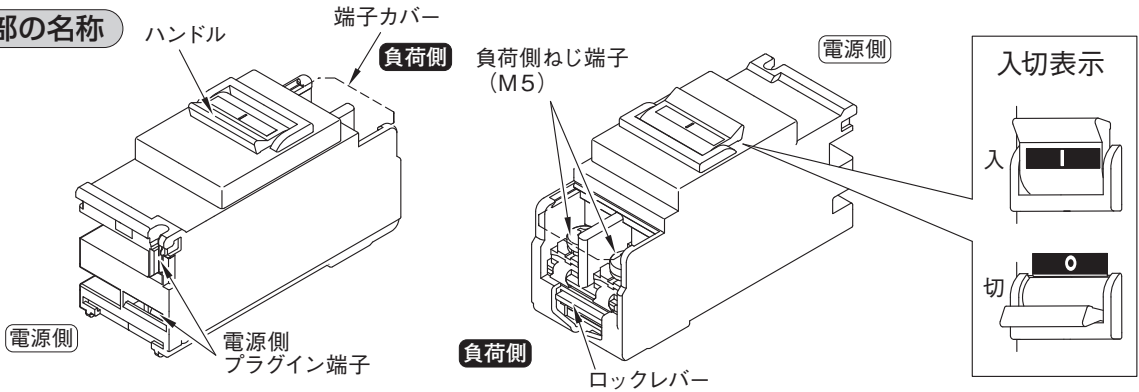
■施工上のご注意

※裏面「安全上のご注意」も併せてお読みください。

⚠ 注意

禁止 	<ul style="list-style-type: none"> ●高温、多湿、じんあい、腐食性ガス、振動衝撃など異常な環境に設置しないでください。感電、火災、不動作のおそれがあります。 	厳守 	<ul style="list-style-type: none"> ●テンパール工業製住宅用分電盤パールテクト専用です。テンパール工業製の他の分電盤、他社製分電盤には取り付けできません。無理に取り付けた場合、火災のおそれがあります。 ●電気工事は、有資格者（電気工事士）が行ってください。 ●電源側プラグイン端子はバーへ確実に差し込んでください。差し込みが不十分な場合、火災のおそれがあります。 ●負荷側ねじ端子への接続は圧着端子を使用し、端子ねじを規定トルクで確実に締め付けてください。端子ねじの締め付けが不十分な場合や不適切な接続を行った場合、火災のおそれがあります。 ●配線作業は上位遮断器を切「○」にし、電気がきていないことを確認してから行ってください。感電のおそれがあります。 ●ゴミ、コンクリート粉、鉄粉等の異物および雨水等が遮断器内部に入らないように施工してください。感電、火災、不動作のおそれがあります。 ●ブレーカの動作で二次的な影響を受ける負荷には警報回路を併用してください。（内線規程） ●連続負荷を有する分岐回路に使用する場合、ブレーカに通電する負荷電流は定格電流の80%以下としてください。（内線規程） ●本製品はAC200V回路専用です。
--	--	--	---

各部の名称



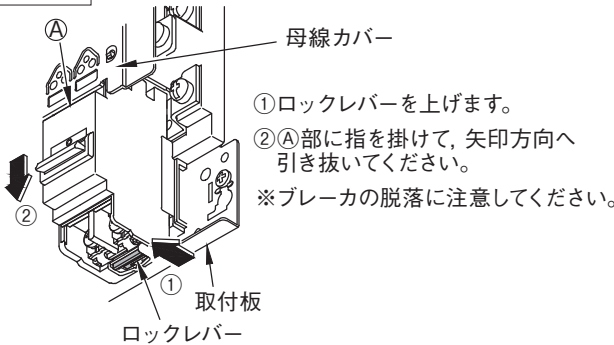
本体の取り外し・取り付け

⚠ 注意

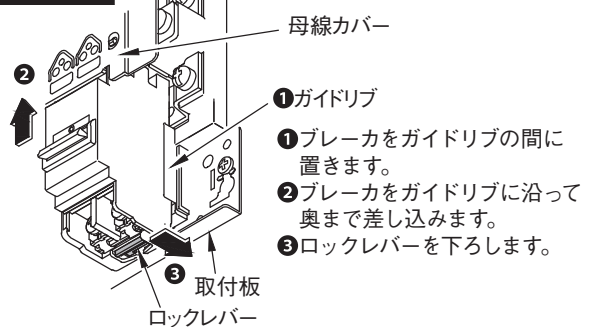
厳守

必ず主幹ブレーカを切ってください。感電のおそれがあります。母線カバーは取り外すことができません。無理に取り外そうとすると、感電のおそれがあります。

取り外し



取り付け



負荷側ねじ端子への電線接続

- ① 負荷側ねじ端子への電線接続は、M5またはM6用圧着端子を使用し端子ねじを規定トルクで確実に締め付けてください。ただし、8mm²の電線で圧着端子を2個合わせて接続する場合、下側（端子板側）圧着端子はM6用圧着端子を使用してください。
- ② 接続する電線は下表のサイズより線を使用してください。その際、より線のハンダ上げは行わないでください。また、絶縁キャップを必ず使用してください。
- ③ 圧着端子の圧着は、適合圧着工具を使用してください。
- ④ 電線接続後は、付属の端子カバーを取り付けてください。

■規定トルク

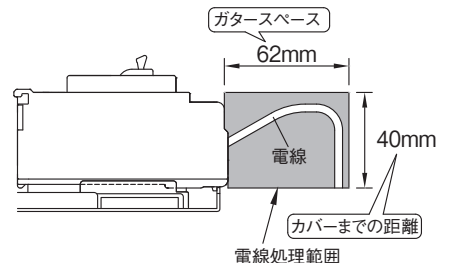
端子ねじの呼び径	規定トルク(N・m)
M5	2.5~3.5

■適合電線・圧着端子のサイズ

定格電流	接続可能電線	適合圧着端子
40A	8mm ²	R 8 -5または6
50A	14mm ²	R 14 -5または6

注)接続電線は電線処理範囲内で配線してください。

範囲外に出ますと、カバーを取り付けることができません。また、電線被覆を傷つけ、感電・短絡の原因となるおそれがあります。



- このたびは、配線用遮断器をお買い上げいただきありがとうございます。
- ご使用前に取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
- この取扱説明書は必ず保管してください。

パールテクト専用

安全上のご注意

施工、使用（操作・保守・点検）の前に必ずこの取扱説明書とその他の付属書類をすべて熟読し、正しくご使用ください。
機器の知識、安全の情報そして注意事項のすべてについて熟知してからご使用ください。
この取扱説明書では、安全注意事項のランクを「危険」「注意」として区分してあります。



危険

：取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡又は重傷を招く可能性が想定される場合。



注意

：取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、傷害を招く可能性が想定される場合及び物的損害だけの発生が想定される場合。

なお **注意** に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。

いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

■使用上のご注意

危険		注意	
	●端子部に触れないでください。 感電のおそれがあります。		●電気工事は、有資格者（電気工事士）に依頼してください。 ●自動的に遮断した場合は、原因を取り除いてからハンドルを入「 」にしてください。 感電、火災のおそれがあります。

■保守・点検上のご注意

注意	
	●保守・点検は、専門知識を有する人が行ってください。 ●保守・点検は、上位遮断器を切「○」にし、電気がきていないことを確認してから行ってください。 感電、短絡のおそれがあります。 ●端子ねじは、定期的に増し締めしてください。 火災のおそれがあります。

施工電気工事者名

TEL ()
施工年月日 年 月 日

商品および取扱説明書の内容についてご不明な点がございましたら、弊社技術問い合わせ窓口までお問い合わせください。